

人と人を結び、たくさんの方々の笑顔をお届けしたい。 みんなの思いをつなげ、 育む「あしたのみどり」

関わり、学び、体験することで
子どもたちの将来の一助に

私たちが何かを発信したい

仙台市泉区の将監東中学校1階で学ぶ、特別支援学級のあすか学級。明るい南側の教室の前には、花壇が設けられています。将来のことを見据え、作業習得の一環として花壇の管理をしてみました。と語るのは、学級を担当する那須耕太先生。ただ、先生方も専門知識があるわけではなく、上手に咲かせることができていませんでした。



生徒たちに学習と経験の場を提供したいとキャンペーンに応募した。那須耕太先生

教室で予習したあと
他クラスと一緒に花壇づくり

専門家である花と緑の力者。117プロジェクト（花17）の鎌田さんが、花壇の現状を視察し、問題点を指摘。さらに、生徒たちが花を大好きになるように、「一緒に勉強できる機会を設けることになりました。」



花プロの鎌田さんを先生に花壇づくりを学習。1年3組の生徒の協力を得ながら、ビオラやランタナなどの花を花壇に植えていきました。



あすか学級の生徒さん、先生、花壇を育てています。あすか学級の生徒さん、先生、花壇を育てています。



あすか学級2年の浅野花奈さん。家でも花を植えたことがなく、有意義な経験になりました。

冬の間はなにもなかった。あすか学級前の花壇。花を植えるのは楽しいけれど、毎日の見守り、水やり、土の浅野花奈さん。これから冬の間はビオラの花が、春にはチューリップが咲き、さらにはランタナなどの香りが全校生徒を楽しませるようになります。



地区の方々が集まる場所に
花で明るさと潤いを

良質な土を入れ排水も改善
前もって準備作業を実施

災害団地移転後、移った方々の土地から近く、隣に公園があることから、地区の拠点施設にしたいとしました。集会所には道路沿いに花壇が設けられています。「老人会の方々が中心になって、花や球根を植えていました。また、少し掘ると小石が出ていたり、花も思うように育ちませんでした。こう語るには、町内会長の大久保勝彦さん。花壇をきれいにするには、まず「気持ちも明るくなるし、集会所を訪れる人にも花を見てもらいたい」との思いから、あしたのみどりキャンペーンに応募することになりました。

一年草以外に宿根草も
手入れは老人クラブが担当

花を植えたのは、好天に恵まれた10月28日の日曜日。作業を始める前に、鎌田さんが「全部一年草を植える、皆さんの負担が大変です」との話があり、一年草のヒオラだけでなく、宿根草も植えることになりました。宿根草は植えてから何年後にも増える。年々には株分けをして町内会の方々にも配れるようになること。まずは植える花を所定の場所に置くことからスタート。小さい方の



花壇づくりが無事に終了して全員で記念写真。冬の間、ビオラが集会所を訪れる人や通行人の目を楽しませてくれます。

2009年にスタートし、今年10年目を迎えた、あしたのみどりキャンペーンは、市民・企業・行政が一体となり、杜の都のみどりを未来につないでいくことを目的にしています。今回の紙面では、キャンペーンの趣旨をご理解いただき、みどりを育むために、植樹や花壇づくりなどを希望された、学校・地域・団体の中から、実際に植樹や花壇づくりを行った中学校と地域の活動の様子、さらには仙台市の「ふるさと杜の再生プロジェクト」の一環である植樹会の様子をご紹介します。

今年7月に再開した若林区の海岸公園「井土地区」を会場に11月25日植樹会が行われました。これは仙台市が東日本大震災により大きな被害を受けた東部地域のみどりの再生を進める「ふるさと杜の再生プロジェクト」の一環で行われ、今回で8回目の開催となります。

あしたのみどりキャンペーンも10周年を記念して冒険広場の角に3本のヤエザクラを植樹。花プロの鎌田さんによれば、ヤエザクラを選んだのは「花の時期が他のサクラに比べて遅いため、他の花が咲き終わっても、こぼれ咲いているうちに」との思いから、またNPO法人「冒険あそび場」さん、みきまネットワークの根本さんからも「子どもたちが登りやすい木を植えてほしい」という要望もあつて決められた。記念植樹では、再来年の開花を期待して、根元に土をかぶせていきます。

またヤエザクラに加え、馬術場の周りにはアジサイも植樹。ミカワドリ、ヒト子姫など17種、約300本のアジサイを参加者も手分けして植えました。その中の一人、越智さんはお子さんに「土を触らせてほしい」と参加。2人のお子さんと土の感触を体験した後は、新庄発防風林再生プロジェクト提供による、山形市煮地元の「東六郷東部あちあち」に調理のご協力をいただき、参加の方に振る舞いを行い、県を越えて住民同士の交流を行いました。

10周年を迎えたあしたのみどりキャンペーン。今後も、あつた豊かな杜の都であり続けることを願い、市民一人一人にみどりを育むための活動を広げることが目指して展開していきます。

あしたのみどり
キャンペーン
10周年を記念して
ヤエザクラとアジサイを
植樹しました

今年7月に再開した若林区の海岸公園「井土地区」を会場に11月25日植樹会が行われました。これは仙台市が東日本大震災により大きな被害を受けた東部地域のみどりの再生を進める「ふるさと杜の再生プロジェクト」の一環で行われ、今回で8回目の開催となります。

あしたのみどりキャンペーンも10周年を記念して冒険広場の角に3本のヤエザクラを植樹。花プロの鎌田さんによれば、ヤエザクラを選んだのは「花の時期が他のサクラに比べて遅いため、他の花が咲き終わっても、こぼれ咲いているうちに」との思いから、またNPO法人「冒険あそび場」さん、みきまネットワークの根本さんからも「子どもたちが登りやすい木を植えてほしい」という要望もあつて決められた。記念植樹では、再来年の開花を期待して、根元に土をかぶせていきます。

またヤエザクラに加え、馬術場の周りにはアジサイも植樹。ミカワドリ、ヒト子姫など17種、約300本のアジサイを参加者も手分けして植えました。その中の一人、越智さんはお子さんに「土を触らせてほしい」と参加。2人のお子さんと土の感触を体験した後は、新庄発防風林再生プロジェクト提供による、山形市煮地元の「東六郷東部あちあち」に調理のご協力をいただき、参加の方に振る舞いを行い、県を越えて住民同士の交流を行いました。

10周年を迎えたあしたのみどりキャンペーン。今後も、あつた豊かな杜の都であり続けることを願い、市民一人一人にみどりを育むための活動を広げることが目指して展開していきます。

木に育ちますように、息のお力添えをお願いします」とあいさつしました。植えるのはイロハモミジ、カツラ、キンモクセイなど2300本以上。参加者は8つのグループに分かれ、冒険広場、馬術場の周りに植えていきます。

ミカワドリ、ヒト子姫など17種のアジサイを、種類ごとにまとめて馬術場に植えました。

移植ヘラで穴を掘り、そこにアジサイの苗木をいれ、植えていく参加者親子。共同作業を楽しみながら、土の感触も確かめていました。

10周年を記念して植えられたヤエザクラ。開花予定は、再来年の春。

特別協賛社の
取り組み紹介

JA全農みやぎ

未来へひろげよう。

「環境保全米」の、やさしさ、おいしさ。

お前、環境保全米って知ってる？

もちろん！
俺を誰かと思ってんだよ？

メガネをかけた豚ちゃん？

豚ちゃんじゃねーわ。
みやぎ米メッセンジャーの
伊達ちゃんだぞ。
お前こそ、知ってるのかよ、
環境保全米？

ちょっと、何言ってるか
わかんないっす…。

「環境保全米」は、
みやぎの豊かな水と土を美しく保ち、
自然豊かな環境を守るために、
農業や化学肥料の使用量を
半分以下に減らして
作られたお米のことだろ。

そうそう。
自然を大切にできることはもちろん、
消費者の皆さまに安全・安心な宮城米を
お届けすることにもつながっている
すこいお米なんです。

なんだよ、知ってんじゃねーか！
環境にも人にもやさしい
宮城米ってサイコーだな。

だから、豚ちゃんじゃねーわ！

お米を食べる豚ちゃんにも
やさしい！

平成30年産の宮城米に関して、全体の作付面積63,185haに対して環境保全米の作付は20,539ha。約3割の田んぼで環境保全米が作られています。環境と人にやさしいお米づくりを、これからも、一歩進んだおいしさをお客さまにお届けしていきます。(平成30年 JA宮城中央会 調査)

みやぎは
米
なんです。

選べるおいしさ、なんです。

ひとめぼれ ササニシキ だて正夢 つや姫

宮城を代表する主力銘柄 和食との相性抜群 もちろん食感の新銘柄 艶があって粒ぞらい

「みやぎ米」メッセンジャー サンドウィッチマン

宮城米について詳しくは <http://m-hozenmai.jp/> あしたの元気！宮城米 検査 980-0011 仙台市青葉区上杉1丁目2番16号 TEL.022-264-8381

JA全農みやぎ